

り、未来に生きる子孫に大きな罪を犯すことでもあるのです。対策が一年おくれたら、回復は十年おくれると思わなければなりません。私たちは自然を守り、生命の水を守るために、霞ヶ浦の水をもう一度よみがえらせるためには、ここに約束された公約がどのような形で実行されてゆくのかをはっきりと見とどける必要があると同時に、議会や行政をリードしていく世論を高めることがなにより大切だと思います。

(土浦の自然を守る会)

49・12・21日駅前で回答文を配布した時のパンフレットです。

拝啓環境庁長官殿

奥井登美子

「昔はお客様がくると、うなどんをとって、わかさぎの折をお土産に買ったものです……」

オヤオヤこないかめしい所で何でうなどんの話など佐賀さんは始めたのだろう。でも、そこが彼のいいところなんだと思つたら、たまたまなくおかしくなつてしまつて、私は笑いをこらえるために、あたりを見まわした。

ふかふかのじゅうたんのひいてある、おそろしく大きな部屋。飾り棚になつた一方の壁には花瓶とお面のようなものが飾つてある。すばらしいのは前のガラス窓にはめこまれた大きな絵なのである。いや絵ではない。それはまるで絵ハガキの風景画然と、たて横、高さのバランスまで計算してきつちりはめこまれたような本ものの国会議事堂なのである。

大きな机があつて、目の前にいるのが、まさしく毛利環境庁長官である。テレビのニュースや新聞で毎日のようにお目にかかる顔であるが、実物の方がはるかにいい。